

JA全厚連情報

(毎月 1 日 発行)

No.1111 2022 年 1 月 1 日

目 次

□ 年頭所感	1
全国厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会会長 山野 徹	
□ 新型コロナウイルス感染症対策等について協議	3
農民の健康を創る会 総会を開催	
□ JA全厚連第 10 次 3 ヶ年計画の骨子について協議	5
厚生連部課長会議を開催	
□ 健康管理厚生連活動推進検討会等について協議	6
事業企画委員会 保健事業部門を開催	
□ 新型コロナウイルス感染症にかかる対応や医師の働き方改革等について協議	7
事業企画委員会 医療事業部門を開催	
□ 管理会計の応用について研修	8
厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第 2 クール）をWEB開催	
□ 受診者拡大に向けた取組みについて協議	9
健康管理厚生連活動推進検討会（第 2 回）をWEB開催	

・通信員だより

第 18 回れんけいのつどい開催（大曲厚生医療センター）	10
事務職員研修会を実施（JA秋田厚生連）	11
サービス向上・ボランティア委員会による草むしりを実施（JA神奈川県厚生連）	13
「世界糖尿病デーin 相模原協同病院 2021」を開催（相模原協同病院）	14
防災訓練を実施（健康管理センターあつぎ）	16
AED講習会を実施（健康管理センターあつぎ）	17
JA長野県保健福祉推進大会（JA長野厚生連）	18
上級職員研修会を開催（JA長野厚生連）	20
戴灯・戴帽式を行いました（更生・愛北・加茂看護専門学校）	21
乳がんイベントを行いました（江南厚生病院）	22
総合周産期母子医療センター設立 10 周年の記念誌を発行しました（安城更生病院）	23
笑大学校を行いました（海南病院）	24
ホテルで食事マナー教室（JA高知厚生連）	25
フレイル予防について講演（JA熊本厚生連）	26



JA全厚連

全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル

TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@JA-zenkouren.or.jp

(経営支援グループ)

<http://www.JA-zenkouren.or.jp>

編集責任者 中村 純誠



年 頭 所 感



全国厚生農業協同組合連合会

経営管理委員会会長 山野 徹

令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

J A組合員ならびに地域住民の皆様方には、日頃より J A厚生事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、ワクチン接種率の向上や新薬の開発・供給等により、昨秋以降には全国の感染者数も一定の落ち着きを見せております。

しかし、依然として変異ウイルスによる感染拡大というリスクもあり、収束はいまだ見通せない状況であります。

新型コロナウイルス感染症との闘いが長期化する中で、全国の医療機関で働く医療従事者の方々等におかれましては、感染予防対策、コロナ患者の受入対応等で、大変な状況が続いているかと存じます。日々奮闘する皆様のご労苦に心より敬意を表しますとともに、同感染症の一刻も早い収束を願っております。

J A厚生連では、ダイヤモンド・プリンセス号で発生したコロナ患者を複数の病院で受け入れる等、国内で感染が拡大する以前から新型コロナウイルス感染症に取組み、多くの厚生連病院が重点医療機関や協力医療機関等の指定を受け、コロナ患者を受け入れてまいりました。

また、自治体や職域で実施された新型コロナウイルスワクチン接種については、各自治体やJ Aグループからの要請に応え、病院・健診施設等で積極的にワクチン接種を実施しております。職域接種については、令和3年9月末時点において22厚生連で協力し、J Aグループ職員等約110,000人（延べ人数）の方々に接種しております。

さらに、医療提供体制が逼迫する大阪府・沖縄県・東京都に対して国から看護師派遣の要請を受け、7厚生連29名の看護師派遣を実施したほか、10月には第

6 波に備えた医療体制確保に向けた確保病床の増床等を行いました。

その一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、「受診控え」という大きな問題が生じました。

健診受診者の受診控えについては、本来はもっと早期に発見されたであろう各種疾病が悪化してから発見されることとなり、地域住民の方々の健康に悪影響をおよぼすことが懸念されております。

患者の受診控えについては、各種疾病の重症化や通常であれば助かる命が助からない状況になることが危惧されております。

また、受診控えについては経営にも影響を与えており、令和 2 年と比べると改善傾向にあるものの、医療機関は依然として厳しい経営環境を強いられております。

受診控えの問題については、新型コロナウイルス感染症が収束しない中においても健診の受診や医療機関での診察受診が地域の健康にはかかせないことをしっかり発信し、伝えていく所存です。

令和 4 年においては、新型コロナウイルス感染症への対応およびアフターコロナへの取組みが大きな課題になると思われませんが、そのような中においても J A 厚生連が質の高い事業を実施し、J A 組合員や地域住民が安心して保健・医療・高齢者福祉のサービスを受けられ健康に暮らすことができるよう、J A 厚生連役職員一丸となって様々な取組みを行ってまいります。

皆様方におかれましても、J A 厚生事業へのより一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策等について協議

農民の健康を創る会 総会を開催

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」の総会が、令和3年12月21日、自由民主党本部1階「101」で開催された。

総会には、衆・参の会員議員計41名が出席（本人出席27名、代理出席14名）した。

J Aグループからは、本会の山野徹経営管理委員会会長、中村純誠理事長のほか、J A全中の肱岡弘典常務、J A北海道厚生連の中瀬省会長（本会経営管理委員会副会長）、園木勇司専務、J A愛知厚生連の宇野修二理事長が出席した。また、厚生労働省審議官ほか農林水産省からも出席があった。

総会では、役員改選により新たに森山裕衆議院議員（鹿児島4区）が会長に就任し、別添のとおり新役員体制が発足した。

森山会長からは「公的病院である厚生連病院の経営を安定させていくため、役割を果たしていきたい」と就任の決意が述べられた。

議事では、厚労省から新型コロナウイルス感染症対策にかかる令和3年度補正予算について説明が行われた後、J Aグループから厚生連の現状を説明するとともに、要望として、①病床確保料の見直しについては地域の病院の実態に沿った運用とすること、②緊急包括支援交付金の令和4年度以降の継続、③厳しい経営状況を加味した令和4年度診療報酬改定、④ワクチン接種（3回目）にかかる支援を求めた。

森山会長からは、病床確保料の見直しに関し「厚労省がもう少し責任をもって、各都道府県と折衝してもらう必要があるのではないか」との意見が出された。また、他の会員議員からも意見が出されるなど、活発な意見交換が行われた。



左から永岡幹事長代理、宮下幹事長、野村会長代理、森山会長、金田会長代行、三ツ林事務局長

農民の健康を創る会 役員

役職	氏名	衆・参	選挙区
会 長	森 山 裕	衆	鹿児島 4
会長代行	金 田 勝 年	〃	比例・東北
会長代理	野 村 哲 郎	参	鹿児島
幹 事 長	宮 下 一 郎	衆	長野 5
幹事長代理	永 岡 桂 子	〃	茨城 7
事務局 長	三ツ林 裕 巳	〃	埼玉 14
事務局次長	国 光 あやの	〃	茨城 6
〃	小 島 敏 文	〃	比例・中国
〃	藤 木 眞 也	参	比例区
幹 事	中 村 裕 之	衆	北海道 4
〃	武 部 新	〃	北海道 12
〃	亀 岡 偉 民	〃	比例・東北
〃	細 田 健 一	〃	新潟 2
〃	斎 藤 洋 明	〃	新潟 3
〃	務 台 俊 介	〃	比例・北陸信越
〃	宮 澤 博 行	〃	比例・東海
〃	島 村 大	参	神奈川
〃	進 藤 金日子	〃	比例区
〃	山 田 俊 男	〃	比例区

JA全厚連第10次3ヵ年計画の骨子について協議 厚生連部課長会議を開催

本会は、令和3年11月18日に、厚生連部課長会議をWEB会議にて開催した。

会議では、(1) JA全厚連第10次3ヵ年計画の骨子、(2) JA全厚連令和4年度事業計画の骨子、(3) 経営管理職層育成研修会（経営理論編）、(4) JA全国大会議案、(5) 新型コロナウイルス感染症にかかる対応、(6) 健康増進活動読本、(7) 厚生連の令和3年度上半期経営収支状況、(8) 令和4年度厚生労働省所管予算の概算要求等、(9) 令和3年度上半期不祥事件および個人データの漏えい等事案の発生状況、(10) 法人税非課税措置にかかる要件管理の徹底—等について協議・報告した。

(5) に関して、各厚生連の対応等について意見交換を行った。新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少について、外来患者数はもどりつつあるものの、緊急事態宣言下で入院制限を行った影響がまだ出ており、低調な状況で推移している等の報告があった。

また、患者数の確保に向けては、地域連携や戦略的な広報の強化、健診の強化の取組みを行っている等の事例が報告された。

健康管理厚生連活動推進検討会等について協議

事業企画委員会 保健事業部門を開催

本会は令和3年11月25日に、WEB会議システムを用いて事業企画委員会（保健事業部門）を開催した。

協議・報告事項として、（１）JA全厚連第10次3ヵ年計画（素案）、（２）JA全厚連令和4年度事業計画（素案）、（３）健康増進活動読本、（４）健康管理厚生連活動推進検討会の協議状況、（５）JA共済連「認知症共済」の新設にともなうJA厚生連との連携、（６）新型コロナウイルス感染症にかかる対応、（７）要改善厚生連等の経営状況一等について検討した。

そのうち、（４）について、本会から今年度の協議状況等を報告し、次年度以降の開催時期、テーマなどを協議した。委員から「年間を通じて、検討会で協議した取組みを実施し、しっかり検証ができるようにしてほしい」、「医療事業厚生連の健診担当部署とも情報交換ができるようになればよいと思う。健診の対象を広げるうえで、医療事業厚生連の健診のやり方などは大変参考になる」といった意見が出された。

委員の意見をふまえ、次年度以降の開催時期については健康増進活動の日程に配慮し設定することとした。医療事業厚生連の当該検討会への参加については、PDCAサイクルの循環が確立できた段階で検討をすすめていくこととした。

新型コロナウイルス感染症にかかる対応や 医師の働き方改革等について協議

事業企画委員会 医療事業部門を開催

本会は令和3年12月2日に、WEB会議システムを用いて事業企画委員会（医療事業部門）を開催した。

協議・報告事項として、（１）JA全厚連第10次3ヵ年計画（素案）、（２）JA全厚連令和4年度事業計画（素案）、（３）新型コロナウイルス感染症にかかる対応、（４）要改善厚生連等の経営状況一等について検討した。

そのうち、（３）について、委員から「外来患者数は徐々に回復しているが、入院患者数はコロナ前の水準までは戻っていない」等の報告があり、引き続き、新型コロナウイルス感染症にかかる補助金確保の支援と、特に経営状況が厳しい厚生連の経営支援に取り組むこととした。

また、協議・報告事項とは別に、医師の働き方改革について意見交換が行われ、令和6（2024）年度から適用される労働上限規制について、委員から「医師偏在等の問題も解決していないまま、令和6年度から労働上限規制が適用されるのは、現実的に厳しいのではないか」、「令和6年度からの労働上限規制の適用開始が地域医療に混乱を招くのは間違いない」といった意見が出された。

管理会計の応用について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第2クール）をWEB開催

本会は令和3年11月25日、26日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第2クール）をWEBで開催し、7厚生連から16名が参加した。

今回の応用編第2クールでは、管理会計の応用をテーマに、①財務会計と管理会計の違い、②事業計画の重要性、③DPC分析を中心とした収益分析からの増収策、④診療科別原価計算等を利用した管理会計演習、⑤設備投資意思決定の応用演習—について研修を行った。

1日目は、財務会計と管理会計の違いをはじめ、事業計画の役割や、DPCデータの活用による収益改善例について研修・演習を行った。

2日目は、(診療科別)原価計算の考え方や、設備投資意思決定の目的と必要性、代表的な手法について研修・演習を行った。また、診療科別損益計算書の作成や設備投資意思決定について、グループに分かれてディスカッションを行った。

DPCデータを分析した結果、以下のような収益改善が見込まれます

DPC分析に基づく収益改善の事例

救急診療管理加算の算定増加	該当医療機関加算の算定ルールの変更や、他施設とのベンチマークを行い算定基準を平準化したことにより、年間3,000万円の増収に
難病外来指導料の算定	難病病名と指導料の算定有無を突き合わせ、算定漏れを減少 年間100万円の増収に
DPCバスの見直し	入院期間が短い疾患の分析結果を病院長から各診療科に伝えてもらい、翌年度平均1日の延床結果に、延日数約1,000日、年間約3,600万円の増収に
初診料の算定状況	病院グループにおいて初診料の算定ばらつきが見られたため、グループ全体で平準化した結果、年間8,000万円の増収に
機械転換	シミュレーションの結果、地域包括ケア病院に転換することで大幅な増収が見込めたため、転換を支援 年間7,000万円の増収に

監査法人トーマツ 藤村 晃 (iPhone)

研修の様子

受診者拡大に向けた取組みについて協議 健康管理厚生連活動推進検討会（第2回）をWEB開催

本会は令和3年11月26日・29日、健康管理厚生連がかかえる個別課題に対応するため、担当課長等を対象に、新たに健康管理厚生連活動推進検討会をWEBで開催した。

「受診者拡大に向けた取組み」をテーマとし、前回の8月に引き続き、本年度2回目の開催となった。

本検討会は、健康増進活動の課題を解決するため、PDCAサイクルを活用し、対応策の立案・取組みの追跡・評価を行うこととしており、施設・巡回健診を実施する厚生連（Aグループ、11月26日開催）と巡回健診のみ実施する厚生連（Bグループ、11月29日開催）に分けて開催した。Aグループが7厚生連10名、Bグループが4厚生連7名の参加となった。

今回は、第1回の検討会にて策定した新たな方策についての取組み結果を報告した。また、その内容に関して、他厚生連やアドバイザー（※）から助言を受け、意見交換を行った。

参加者からは、「多くの意見を拝聴し、いい刺激になった。本会でも、まだ取り組めることが大いにあると感じている」、「各県の厚生連の課題や取組みに対して的確にアドバイスいただき、他県の内容でも参考になるものがあったと思う」などの意見があった。また、開催時期やPDCAサイクルに関しては、「6月、9～11月は繁忙期であるためできれば外していただきたい」、「時期は問題ないが、開催間隔が短いので、取り組みや効果測定が難しい」などの意見があった。

今回の検討会をふまえ、各厚生連は新たな方策を策定し、今後の活動につなげることとしている。

※社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷予防検診センター事務長・池田 孝行氏



第 18 回れんけいのつどい開催

(J A秋田厚生連・大曲厚生医療センター)

大曲厚生医療センター（三浦雅人病院長）では令和3年11月10日、大仙市にあるグランドパレス川端にて「第18回れんけいのつどい」を開催しました。コロナ禍のため一堂に会することが出来ず、昨年に引き続きWeb配信とのハイブリット開催となりましたが、当院職員を含め79名の参加を得ることが出来ました。この会は当院の医療圏にあるクリニックや病院の医師と顔を合わせ、互いに語り合えるつどいとして恒例の行事になっています。

特別講演として、当院の医師3名が発表しました。初めに耳鼻咽喉科診療科長・垂石羊司医師から「病院耳鼻咽喉科の役割-救急外来の症例から-」と題し、当院の救急外来を受診する患者さんの耳・鼻・喉・顔面外傷・めまいの疾患について講演を行いました。

続いて皮膚科診療科長・石河軌久医師より「带状疱疹について」と題し、先生方の知見の再確認として講演を行い、来場されたクリニックの先生からは日々の診療に生かそうと活発な質問をいただきました。

最後に副院長の内科・仁村隆医師より「当院におけるCOVID-19症例の最近の治療について」と題して、当院に入院した患者さんの所見について講演を行いました。最近はワクチン接種も進み、高齢者の発症は減少し、入院患者は若い世代にシフトしたことや、ワクチンを接種してもブレークスルー感染の危険性もあるので、感染対策の継続が必要であることなどを話しました。



第 18 回れんけいのつどい開催の様子

今回も多くの方に出席いただき、高齢化の進む当地域の医療連携に対する関心の高さが窺えました。今後も「れんけいのつどい」を通じ、医療機関とのさらなる連携強化と地域医療に貢献する姿勢をアピールしていきたいと思えます。

(三浦由佳通信員)

事務職員研修会を実施

(J A秋田厚生連)

J A秋田厚生連（小野地章一・代表理事理事長）では、令和3年10月に事務職員を対象に勤務年数や役職に応じて、新人基礎研修会、マネジメント基礎・実践・発展研修会を実施しました。

今後は限られた人員の中で、事務職員一人ひとりに病院経営を担うための知識や能力が求められます。これを具現化するためには個々人の「主体性」「課題発見力」「実行力」等の基礎能力向上が必須です。

各研修会では受講者に応じた役割や研修の目的を明確に提示し、グループワーク等を取り入れながら、事務職員のスキルアップを図りました。

○事務職員新人基礎研修会 I

1年目及び2年目の新人職員を対象に、組織への帰属意識の醸成及びモチベーションの向上を目的とする。

○事務職員マネジメント基礎研修会 I

3年目以降の一般職員を対象に、コミュニケーション能力及びコーチング能力向上を目的とする。

○事務職員マネジメント実践研修会 I

課長補佐と係長を対象に、取り巻く環境の変化に対応し、リーダーとして現場をまとめるためのコミュニケーション能力及びコーチング能力向上を目的とする。

○事務職員マネジメント発展研修会 I

次長・課長・調査役を対象に、部下育成に基づいた個々人のモチベーション及び指導スキルの向上を目的とする。

※各研修会では研修内容が異なる I と II を隔年で実施しており、令和3年度は I を実施しました。

研修の受講者からは「自分に求められる役割を確認し、自己分析ができてよかった」「ゲーム感覚のグループワークが面白かった」といった意見が多く聞かれ、いずれも充実した研修会となりました。

当会では事務職員のみならず、様々な職種でスキルアップのための研修会を実施しており、Zoomなどのオンラインを有効活用し、感染予防に留意しながら、受講者にとって有意義な研修になるよう努めています。今後も、信頼とぬくもりのある医療の提供を目指して、地域に貢献する人材づくりに取り組んでまいります。

(三浦由佳通信員)

サービス向上・ボランティア委員会による 草むしりを実施

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和3年10月23日、相模原協同病院（井關治和病院長）ではサービス向上・ボランティア委員会を中心とした職員の皆さんによる院内の草むしりが行われました。

草木のつるがかなり伸びていて、一か所を取り切るのに苦劳しましたが、終えた所は見違えるほど綺麗になりました。約2時間作業を行い、集めると草木の山が出来上がりました。引き続きこうした取り組みで、患者さんや来院された方、また私たち職員も気持ちよく過ごせる環境を作っていきたいです。



大勢の職員が参加した草むしりの様子



たくさん採れました

(新嶋友梨恵通信員)

「世界糖尿病デーin 相模原協同病院 2021」を開催

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和3年11月13日、相模原協同病院（井關治和病院長）では糖尿病ケアチーム主催による一般の方を対象とした「世界糖尿病デーin 相模原協同病院 2021」を開催しました。

11月14日は世界糖尿病デーとされていて、“Unite for Diabetes”（糖尿病との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

相模原協同病院・糖尿病ケアチームでも、「世界糖尿病デー」にちなんで、糖尿病の正しい知識を知ってもらえるよう無料イベントを開催しました。

当日は身長・体重測定、身体機能測定（握力、2ステップテスト）、フットチェック、看護師、薬剤師、栄養士による糖尿病療養相談が行われ、メインイベントとしては、糖尿病・代謝内分泌内科の山口部長による「アンチエイジング生活を長く続けるために」うそほんとクイズ、かんたんエクササイズを参加者の皆さんと一緒に行いました。

参加者の方は、クイズもエクササイズも一生懸命取り組んでいて関心の高さが伺えました。

また、糖尿病療養相談では個別にさまざまな相談に、丁寧にアドバイスをされている様子が伺えました。

参加された方々からは「うそほんとクイズで正しい知識が身につきました」「かんたんエクササイズよかったです。これからも続けようと思います」など高い評価の感想をいただきました。



かんたんエクササイズの様子



うそほんとクイズの様子



療養相談の様子



糖尿病ケアチーム

(新嶋友梨恵通信員)

防災訓練を実施

（JA神奈川県厚生連・健康管理センターあつぎ）

令和3年12月3日、健康管理センターあつぎ（野田吉和センター長）にて防災訓練を行いました。

初期消火、避難誘導、情報伝達の訓練を行った後、業者より消火栓等の使い方について講習を受けました。万が一の場合に備え、さまざまな状況に対応出来るよう、年2回の訓練にしっかり取り組むことが大切だと感じました。



講習会風景



保健福祉センター事務部長への報告

（新嶋友梨恵通信員）

A E D 講習会を実施

(J A 神奈川県厚生連・健康管理センターあつぎ)

令和 3 年 10 月 12 日に健康管理センターあつぎ（野田吉和センター長）は、A E D 講習会を実施しました。

三人一組となり、救急車を呼ぶ人・A E D を持ってくる人・心肺蘇生担当の三役に分かれて行いました。

今後人命救助が必要な場面に遭遇した際、講習会で得た経験をもとに落ち着いて対応することが大切だと改めて感じました。



心肺蘇生の様子



訓練用人形

(新嶋友梨恵通信員)

J A長野県保健福祉推進大会

「健康でいきいきと安心して暮らせる地域づくり」
～健康寿命延伸を目指して すべての人に健康と福祉を～

(J A長野厚生連)

J A長野厚生連（社浦康三・代表理事理事長）は、J A長野県保健福祉推進委員会・J A長野県厚生部会が主催となり、令和3年11月15日にJ A長野県保健福祉推進大会を開催しました。

例年、安曇野市の信州安曇野イベントホール「サンモリッツ」にて開催しておりましたが、本年は万全な感染症対策を講じるべく、Zoomを使用したWEB大会として準備を進めてまいりました。本大会として、WEB開催は初の試みでありましたが23団体、155名の方々にご参集いただき、例年に引けを取らない規模で開催することができました。

本年は【講演Ⅰ～Ⅲ】と3名の講師による講演をいただきましたが、それぞれの視点で「健康」について語られ、健康な人生を送るための基盤となる情報を取り入れることができたことと感じます。

【講演Ⅰ】では「第8期長野県高齢者プランについて」と題し、長野県健康福祉部介護支援課企画官兼課長補佐兼計画係長の今井政文氏に講演いただきました。今井氏は、県保有のデータを提示しながら、長野県の現状について分かりやすい説明をしていただきました。その中でも長野県の長寿は世界トップレベルであることに驚きや誇らしい気持ちになられた方も多かったのではないのでしょうか。

また、2040年には、「地域共生社会」を実現するため「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて一人ひとりが生きがいと役割を持つことが重要であると、我々の目指すべき姿を明確にさせていただきました。

【講演Ⅱ】では「まちづくりの中のオーラルフレイル対策」と題し、佐久総合病院歯科口腔外科の美濃和秀幸 医師に講演いただきました。美濃和医師は、まず自身の講演のタイトルである「オーラルフレイル」がこれまでは存在していない造語であることから始まり、自身の経歴、経験を交えつつ歯科医師ならではの切り口で講演いただきました。

口のトラブル、食事方法について医学的な見解と改善法を示しながら、高齢者に優しいまちづくりを実現するためには、通いの場で「地域の共食」を目指す必要があると、オーラルフレイルが優しいまちづくりに繋がることを示していただきました。

【講演Ⅲ】では「通いの場からはじまる健康づくり～JA長野県健康寿命創造運動 いきいき健康講座～」と題し、(一財)日本農村医学研究所主任研究員の柳澤和也 氏に講演いただきました。柳澤氏は、健康づくりについて、どこにいても筋肉量分かる指輪っかテストや、簡易的な運動を交えつつ講演いただきました。

実演や参加者が一体となれるような声掛けに、WEB開催であることを感じさせないような明るい講演となり、最後には健康と運動が密接な関係にあるという思いを、我々が身をもって感じることができました。

本年は、万全な感染対策を講じ、WEBでの開催といたしましたが多くの方のご協力のもと成功裏に終了いたしましたことに感謝申し上げます。

JA組合員をはじめとした地域生活者の健康増進・介護予防を図ることを目的に、来年度以降も開催していきたいと考えております。



【講演Ⅲ】柳澤氏「通いの場からはじまる健康づくり
～JA 長野県健康寿命創造運動いきいき健康講座～」

(山岸愛通信員)

上級職員研修会を開催

(J A長野厚生連)

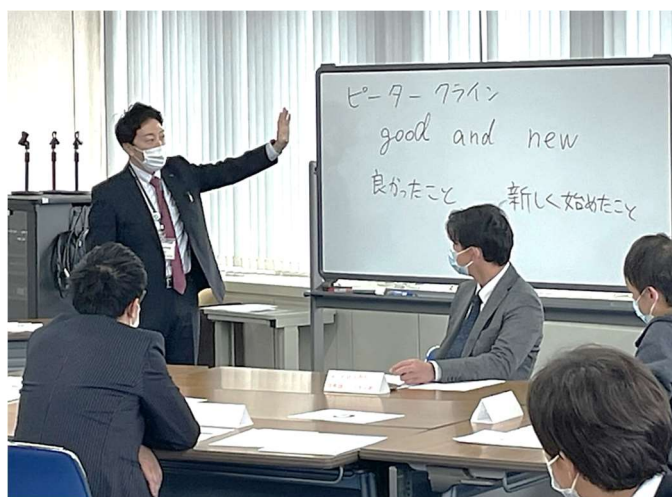
J A長野厚生連（社浦康三・代表理事理事長）は令和3年11月24日、全職種対象とした上級職員研修会を開催し、管理部や診療協力部の勤続年数5～10年目の職員を中心に25名の参加がありました。

この研修は、職員が組織の中で果たすべき役割の理解や必要な知識の習得を目的とし開催されました。

講師には、J A長野中央会 J A支援部の萩原圭主任調査役を迎え、「組織で働く職業人の基本」「組織の中の上級職員の役割」「仕事の管理」について、グループワーク形式で学びました。

多職種でグループを作り議論しながらの講義となり、受講者からは「他事業所・多職種の方と関わりモチベーションが上がった」「明日から活かせる事が多く、自己啓発の意味でも参考となった」などの声が聞かれました。

また、コロナ禍において、他の事業所の職員と接する機会が今年はほとんどなかったため、今回は参加者同士で情報交換や悩み等を共有する良い機会になったと思います。



講師のJA長野中央会 萩原圭主任調査役



グループワークの様子

(山岸愛通信員)

戴灯・戴帽式を行いました

（J A 愛知厚生連・更生・愛北・加茂看護専門学校）

J A 愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）の看護専門学校で、戴灯・戴帽式を行いました。各学校、昨年に引き続き感染対策を講じながら執り行いました。

戴灯・戴帽式は、看護の心を継承する灯を戴くことで、ナースを目指す意識を高め、その責任の重さを自覚する一生に一度しかない儀式です。

また、学内で学んだ知識と技術をもって、病院という大きな世界へ踏み出す第一歩でもあります。

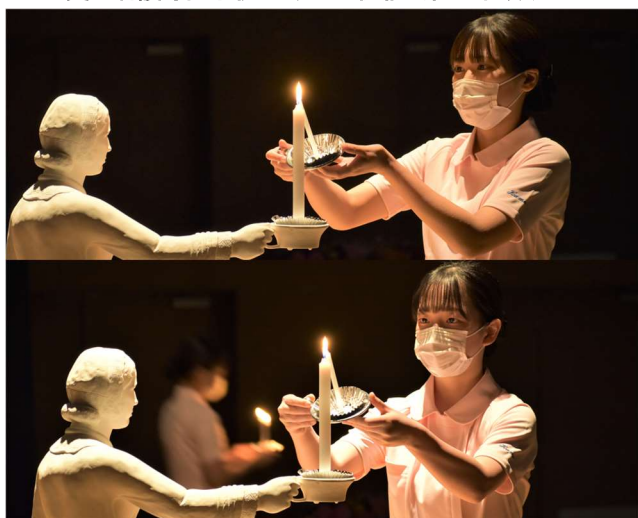
3年後には素敵なナースに成長し患者さんのお役に立てるように励んでまいります。



更生看護専門学校 11 月 4 日開催 第 49 回戴灯式



愛北看護専門学校 12 月 1 日開催 第 26 回戴帽式



加茂看護専門学校 10 月 29 日開催 第 39 回生戴灯式



戴灯生たちは、ナイチンゲールから蠟燭の灯火を戴きます

（井桁千聡通信員）

乳がんイベントを行いました

(JA愛知厚生連・江南厚生病院)

江南厚生病院(河野彰夫病院長)では令和3年10月のピンクリボン月間にあわせ、令和3年10月21日に乳がんイベントを開催しました。

コロナの影響で2年振りの開催となったため、担当職員の意気込みは例年以上。専用の垂れ幕を作るなどアピールにも力を入れた甲斐があり、会場内は常に賑わっていました。

このイベントにより、検診による早期発見の大切さや、罹患しても前向きに人生を歩むことができることが伝えられれば幸いです。

当日の内容はオンラインで1月15日まで配信しています。皆さま、是非ご覧ください。

<http://www.jaaikosei.or.jp/konan/info/index.html#info133>



医師と乳がん体験者による講演会の様子。
参加者からの質問に答える乳腺・内分泌外科医師 飛永純一先生。



会場での触診体験



病院正面玄関も力を入れて飾り付け

(井桁千聡通信員)

総合周産期母子医療センター設立 10 周年の 記念誌を発行しました

(JA愛知厚生連・安城更生病院)

安城更生病院（度会正人病院長）は、2020 年 12 月に「総合周産期母子医療センター」指定から 10 周年を迎えました。

コロナ禍で祝賀会等が開催できない中でも院内外の皆さんへ感謝の意を伝えるため、記念誌を発行しました。

記念誌は、関係者の祝辞のほか、総合周産期母子医療センターの概要・歴史・各種実績・患者様からのメッセージや歴代のセンター長・看護課長の座談会など、センターが歩んできた 10 年、そして未来への想いが詰まった記念誌になっており、西三河周産期医療ネットワーク協議会参加施設をはじめ、関係団体・個人へ配布されました。



集合写真



記念誌の表紙



10 年後のセンターへの想いを職員がイラストにしてくれました

(井桁千聡通信員)

笑大学校を行いました

(JA愛知厚生連・海南病院)

海南病院(奥村明彦病院長)では、令和3年11月4日～17日にかけてイベント「笑大学校」を行いました。

「笑大学校」とは、住み慣れた地域で最期まで過ごせるよう、「いい介護の日」に合わせて、介護への理解を深めていただく機会として、2010年より毎年開催しているイベントです。

コロナ禍でも、全世代の方がそれぞれの立場で「介護」について考える機会となるように、昨年に引き続き、ヘルパーステーション職員による手作りのパネル展示と動画の配信を行いました。

動画は下記からご覧いただけます。

▼海南病院のホームページ 高齢福祉事業部ページ

<http://www.kainan.jaaikosei.or.jp/department/welfare/welfare.html>

▼海南病院 YouTube 公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCACJ8fqDpzQDxqguKrozWjA>



海南病院ヘルパーステーション職員による
手作りの「たすけと劇団」の寸劇



弥富市役所で行われたパネル展示の様子



通所リハビリテーション「きらら」での
コロナウィルス対策を紹介



短編の寸劇動画は YouTube からご覧いただけます。画像のイラストも職員の力作です！

(井桁千聡通信員)

ホテルで食事マナー教室

(J A 高知厚生連)

高知県仁淀川町でカット野菜の製造・販売等をする株式会社フードプランや同町教育委員会、J A グループ高知などは令和 3 年 11 月 11 日、高知市のホテル日航高知旭ロイヤルで、同町の 2 校の中学 1 年生 20 人を招き、フレンチフルコースを味わいながら、食事マナーや地域の食材、健康などについて学ぶ「仁淀川レストラン」を開いた。

同レストランは、フードプランが食に関わる企業として、食育・マナー学習を通じて地域に貢献したいと 2012 年から開催している。

同ホテルチーフがマナーや食に関する歴史などを説明。生徒らは「四万十鶏とキクラゲ、松茸の入ったパイ包み焼きスープ」「土佐あかうしロース肉のグリル」など、地域の食材を活用したスペシャルメニューを味わった。

J A 高知県特産販売課の職員が農業や農産物について、J A 高知病院（都築英雄病院長）の平山祐美子管理栄養士が食生活と健康について講話した。

平山祐美子管理栄養士は「生産者や料理を作った方への感謝の気持ちを学べるすばらしい教室だった。今のうちから正しい食生活を身につけ、一生健康に過ごしてもらいたいと思う」と話した。

池川中学校の参加した生徒からは「先輩から聞いていて楽しみにしていた。講話内容やテーブルマナーなど、たくさんのことを学んでいきたい」と語った。

(黒瀬あずみ通信員)

フレイル予防について講演

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連（宮本隆幸代表理事長）は、JAやつしろ女性部より「めざせ！健康寿命 100 歳！」をテーマに講演の依頼を受け、令和 3 年 10 月 22 日 JA 中央総合営農センターで開催されたリーダー学習会にて、長井望美管理栄養士が講師を務めました。

女性部から支部役員 44 名が参加し、フレイル予防を中心に生活改善と社会参加の必要性を伝えました。

「フレイル」とは、虚弱のことで、加齢に伴い疲れやすさなどから心身が衰え、社会的つながりが弱くなった状態のことです。JA 健康寿命 100 歳プロジェクトの新メニューである「フレイル（虚弱）予防のための足し算引き算レシピ」（必要なたんぱく質をプラスし、脂質や塩分をマイナスするレシピ）を紹介し、農作業でのけが予防を目的に開発された「アグリ・サイズ」を参加者全員で実践しました。

また、社会とのつながりの希薄がフレイルを招くことから、社会参加活動として女性部活動等を通じての仲間づくりの重要性を伝えました。



講演の様子

(庄村佐知子通信員)